

# 新年のご挨拶

西豪州日本クラブの皆様、  
新年おめでとうございます。

昨年10月8日に在パース日本国総領事として赴任しました内藤康司です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西豪州と日本との関係が良い進展が続いております。まず何と云っても昨年10月末に岸田総理をパースにお迎えし、二国間関係がさらに強化されました。懇談会で岸田総理に日本クラブの活動のお話を頂いた小松崎会長ほか、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



世界がコロナ渦に立ち向かい、ロシアのウクライナ進攻がエネルギー不足や食糧問題を含め国際社会を新たな困難に陥らせ、インド太平洋の安全保障環境や地球規模課題も深刻さが増えています。しかし、いずれの課題への対応においても、日豪両国の協力が鍵であるとの認識が急速に高まっています。その結果、エネルギー、鉱物資源、安全保障協力、新たな脱炭素分野のいずれにおいても存在感を高め、重要な要素が凝縮している西豪州の州都パースが、日豪首脳会談の開催地として選ばれたわけです。

岸田総理のご訪問により西豪州のプロファイルはさらに高まり、ビジネス関係でも日々新たな動きがあります。年末には鉄鉱石分野で多大な貢献をされ、131回の訪日歴もあるサム・ウォルシュ元リオティント社CEOへの旭日中綬章の転達をさせて頂いたほか、パースでの水素会議では多数の日本企業が細野JOGMEC理事長とともに参加し、脱炭素産業フロンティアでの意欲と存在感を示しました。そして本年1月22-29日にかけてマッガーワン西豪州首相が日本に公式訪問し、またコロナ渦で停止していた全日空パース・成田直行便が本年10月末から週3往復する発表を含め、良い進展が続いております。

こうした各分野での協力を支えているのは、日本や日本人の考え方に対する西豪州の人々の理解の深さと相互のリスペクトです。信頼関係は、当地に定住された日本人の方々が高い年月をかけて築かれたものであると確信しております。各時代に西豪州にわたり、土地と人々の美しさを愛し、祖国日本との架け橋となられてきた有名無名の方々が多くおられ、その思いの強さと蓄積を感じています。日本クラブの皆様のように、楽しみながら日本の魅力を発信される方が多数おられることにも日々驚かされています。総領事館は、そうした方々の輝きを最大化できるよう、いわばモデレーターの役割を目指して参ります。

本年も、日米豪印首脳会議の豪州開催(総理は今年も豪州に来られることとなりますね)、日本が議長となるG7広島サミット(議長国のイニシアチブでG7以外の重要国も招かれます)、国連やG20サミットを含め協力の機会が多くあります。そして西豪州では、もちろん今年もパース日本祭があります。日本と豪州、日本と西豪州のさらなる発展を目指し、日本クラブの皆様にご教示を頂きながら、積極的に活動して参りたいと思います。

総領事館は、パースで暮らす方々の滞在が安全かつ快適なものになるよう領事サービスを含め努めて参ります。お気づきの点等ありましたら、是非お気軽にご連絡・ご相談を頂きますようお願い申し上げます。



2023年度がスタートしました。  
改めまして、おめでとう御座います。

旧年中は、様々なイベントの開催延期または中止を余儀なくされ、コロナウイルスとの戦いは収束するまでに至っておりませんが、世界的に規制も緩んできているようです。  
しかしながら気を緩めずに自己管理をしっかりして感染防止に努力してください。

昨年末に岸田総理大臣の西豪州パース電撃訪問の際に、日本クラブ代表として夕食会に招待されました。一時間ほどではありましたが、総理との会食を楽しみましたので、写真を添付いたします。



日本クラブ会長 小松崎 隆